

その時冷静に動くために～日頃の備え～

1. 自宅などが災害に遭う危険性を確認

取手市洪水ハザードマップで自宅などの浸水の可能性を確認しましょう。安全な地域の場合、在宅避難を検討することも身の安全を守る一つです。

洪水ハザードマップは堤防が決壊した時の浸水範囲、浸水する深さなどの情報や、避難が必要になった際の避難所情報などを地図上で表示しています。市では、国土交通省が平成29年に公表した想定最大降雨に基づき作成し、令和元年6月にポスティングで市内全戸に配布しました。

▶想定最大雨量（72時間の総雨量）

利根川流域：491mm（群馬県伊勢崎市八斗島上流域）

小貝川流域：778mm（筑西市黒子上流域）

■自宅などが浸水するまでの時間と深さを知る

国土交通省ホームページから、地点別浸水シミュレーション検索システム（浸水ナビ）を使うことで、次のことが調べられます。

▶決壊した堤防ごとの浸水する深さ

▶水の到達所要時間、水が引くまでの日数



市洪水ハザード
マップ



浸水ナビ
(国土交通省)

2. 避難先はどこにするかを決めておく

事前に避難先を決め、家族などと共有しておくことで、合流することができます。また、感染症の対策・予防を行っても感染リスクがゼロになることはありません。指定の避難所だけでなく、「分散避難」を考えることも必要です。

親戚・知人宅

ハザードマップで安全な場所にあるか確認しましょう。普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。

車中泊

高台など安全な場所に駐車しましょう。こまめな水分補給とストレッチなどの対策を行い、エコノミークラス症候群に注意しましょう。

ホテル・宿

個室のため、プライバシーなど周囲を気にすることなく生活できます。通常の宿泊者がいるため、空き状況や料金など確認が必要です。

3. 避難ルートの安全性を実際に確認する

安全に避難するために、避難先までに危険箇所がないか事前に確認しましょう。

危険ポイント1 足元

濁った水で、足元の障害物が見えません。例えば、用水路やマンホールのふたが開いているなどの危険があります。また、水が膝の高さを超えると、水圧で流される危険が高くなります。つえや傘などを使って、足元を確認しましょう。



▲この状態では危険です

危険ポイント2 車避難

水深10cmでブレーキが効きにくくなるなど、少しの水位でも車の動作に影響が出ます。掘り下げ式の道（アンダーパス）、冠水した道路を避けましょう。

危険ポイント3 土砂崩れ・倒木

大雨により、水分を多く含んでいる斜面は、崩れる、または倒木の危険性が高くなります。斜面地を避け、遠回りでも崖地がない場所を通りましょう。



4. 避難時の持ち物をまとめておく

災害が発生している状況で冷静な判断ができるとは限りません。避難所に備蓄品を備えていますが、自分にとって必要なものを事前にまとめて、いつでも持ち出せるよう準備しておきましょう。

■避難所に最低限持参するもの

マスク、室内履き、体温計、救急医療品（常備薬・持病薬など）、せっけん、着替え（下着含む）、上着、タオル、飲料水・食料（3日以上）、歯ブラシ

■あるとよいもの

現金（キャッシュカードではなく）、ラジオ、バッテリー、筆記用具、消毒液 ※その他、女性や小さな子ども、高齢者に必要な物品や食料など、日常生活に必要なものを準備しておくことが大切です。

■どこに置いておくか

すぐに持ち出して避難できる玄関を中心に、寝室などにも置いておきましょう。



防災グッズは定期的に中身を点検し、賞味期限や電池の残量などを確認しましょう。

情報を取得し行動を

■市が発信する情報を知る

市が発令する避難情報や、避難所の開設状況を知ることができます。

■防災無線・防災ラジオ

市内各所設置の防災無線や、貸与している防災ラジオを活用してください。



防災無線
放送内容

■SNSなどのツール

SNSやメールマガジンなどで防災情報を発信しています。登録をお願いします。



防災情報取得
ツールの一覧

■川の水位や洪水の危険性を知る

■川の水位を映像で確認する

各所に設置されたカメラで、川の状況を10分ごと確認することができます。



川の防災情報
(国土交通省)

■災害の危険度を地図上で視覚的に確認する

キキクルは災害発生の危険度別に色分けして表示されます。洪水や浸水、土砂災害の危険度を確認できます。



キキクル
(気象庁)

■避難情報とその時取るべき行動

市や気象庁などから発表される防災情報から、一人一人が自分の判断で避難行動を取れるよう、避難情報の名称が5月に変更されました。危険な場所にいる方は警戒レベル4の避難指示までに必ず避難を終えましょう。

警戒レベル	新たな避難情報	状況	取るべき行動例
5	緊急安全確保	災害発生または切迫	頑丈な建物の高層階に避難など、「命を守る行動」
【警戒レベル4までに必ず避難】			
4	避難指示	災害発生のおそれが高い	危険な場所から全員避難開始
3	高齢者等避難	災害発生のおそれがある	高齢者など避難に時間がかかる人は避難開始
2	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁発表)	気象状況悪化	非常持ち出し品を用意 ハザードマップで避難先を確認
1	早期注意情報 (気象庁発表)	気象状況悪化のおそれ	テレビなどで気象情報を確認 家族と連絡を取る